



鳥に魅せられて

湖北野鳥の会 会長
清水 幸男さん (61歳)

＜連絡先＞
湖北野鳥の会
(☎78-0660事務局：清水)

野鳥観察を始めたきっかけ

「幼いころからとにかく生き物が好きで、魚やへび、クワガタやバッタなどいろいろな生き物を見て、触れて育ってきました。小学校の4年生頃だったと思います。が、周りで伝書バトを飼うのが流行し、私も飼いはじめました。それが、本格的に鳥とつきあいだした始まりです。ですから鳥とのかかわりは、もう50年以上になります」

幼い頃の出来事を昨日のこのように語ってくれるのは、野鳥観察を趣味にしている清水幸男さん。

現代は、テレビゲームなど家の中で遊ぶ子が多いが、清水さんの子どもの頃の遊びといえば、川での魚とりや、野山での虫採り、冒険ごっこ。友達が数人寄れば家にいるなんて考えられない時代だった。いかなれば自然やそこに暮らす生き物が遊び相手。遊びの方法

は自分たちで考えた。そのうちの一つが野鳥観察だった。そして魅かれていった。

鳥へのあこがれ

「空を飛べるっていいな。」地面に寝転がって空を見上げると、気持ち良さそうに上空を旋回するトンビ。自分もそうなりたいたい、子ども心にあこがれをもつて見始めたのを覚えています。自分が飛べないことはわかっている。それでも鳥の気持ちに少しでもわかれば、空を飛んでいる気分になれるかも・・そんな思いがあつたのかもしれません」

そうして始まった清水さんの野鳥観察。そんな中、あることに気づいたそう。

「種類を限定しなければ、鳥つてどこでも見られるんです。家の周りに普通にいるスズメやカラス

を見ていてもおもしろかった。空を飛ぶ生き物ととらえれば同じですから。また、季節によって、場所と同じでも見られる種類が変わります。鮮やかな色をしたキジや鳴き声がかわいいウグイスなど家の近くで見ることができました」

鳥を見ると周りが見える

これからの時期、山は赤く染まり、秋から冬へと季節の移り変わりを教えてくれる。

「鳥を真剣に観ると周りの自然が見えてきます。それは景色の移り変わりだけではありません。鳥がどんな餌を食べているのか。どうしてこの鳥が増えてきたのかなど考えると、環境の移り変わりも見えてきます。鳥を通して一歩踏み込んだ自然環境の変化を見ることができるよう」

鳩トビの湖とも呼ばれる琵琶湖。鳩トビとはカイツブリのこと。清水さんは長年の観察でニオの変化から琵琶湖の変化に気づかされたという。

「冬の琵琶湖にカイツブリは本当に少なくなりました。今では5、600羽しかいません。おそらく、ヨシ原が少なくなったり、内湖が消えていったからでしょう。鳥が教えてくれるんです」

野鳥観察の魅力

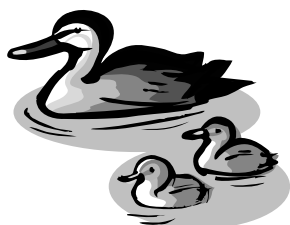
環境の変化など難しいこともある野鳥観察。だけど本質は鳥を見て楽しむこと。その魅力については。

「鳥は何千回、何万回みても、飽きません。いくつになっても鳥に出会う前はワクワクします。シーズンによって見られる鳥は変わりますし、どんな鳥が出るのかウズズしますね。これからの季節は、コハクチョウやオオヒシクイが飛来し。オオワシも早く来ないかと期待に胸が膨らみます」

理由を尋ねると

「毎日見慣れた鳥でも日によって違います。愛想の良い日もあれば、無愛想な時もあり、50年見ても、その都度、新鮮な感動を与えてくれます」

気持ちが沈んだ時は癒され、前向きになることもある。二生をかけ楽しめるものに出会えたことを幸せに思います」



水鳥の楽園と呼ばれるこの場所は

「全国いろいろな場所へ鳥を見にいきました。だからわかるんですが、野鳥センター周辺は一級のパードウォッチングの場所です。今もガンやコハクチョウなどがいて、とても賑やかです。水辺の鳥だけでなく、山の鳥も。今年もオオワシがやってくるかなあ」

「えさが豊富で、自然が豊か。自然を壊すのは簡単だけど、元に戻すのは容易ではないと思います。なくなってしまうからでは遅いんです。鳥の楽園であるこの場所は、夕日もきれいで心にやすらぎを与えてくれる。人にとっても楽園なのです。この環境を守ってきたい」と清水さん。

鳥の中でもオオヒシクイは環境に敏感だそう。環境が悪化するとうすぐ他の場所へ移ってしまう。言うなれば自然の豊かさを測ることができる環境バロメータ。今年もこの場所では多くのオオヒシクイを見ることができ



▲観察にあると便利
図鑑と双眼鏡

琵琶湖岸の環境保全の取り組みなど 紹介します

湖岸でヨシを育てよう

ヨシ群落は、「魚介類の産卵・生息の場」「野鳥の営巣・成育の場」「琵琶湖の水質保全」「湖岸の浸食防止」「生活用品の材料」など、琵琶湖にとって非常に重要な役割を担っています。

長浜の快適な環境づくりのために活動をしている「ながはまアメニティ会議」では、その活動の一つとして、昔あったヨシ群落の風景を取り戻すため、ヨシ植えを実施しています。



☒ながはまアメニティ会議事務局
＜市役所環境保全課内＞ (☎65-6513)

いくつかの団体で、年に何度かヨシ植え活動をされますので、皆さんも参加してみてください。日程等はその都度、広報などでお知らせします。

琵琶湖・余呉湖一斉清掃

7月1日(日)に実施された一斉清掃。雨天にもかかわらず約1,600人の皆さんに参加いただき、琵琶湖岸と余呉湖周辺のごみを回収することができました。



■ごみ回収量 3,600kg

☒美しい長浜をつくる会事務局
＜市役所環境保全課内＞ (☎65-6513)

湖岸クリーンアップ事業補助金

美しい長浜をつくる会では、琵琶湖岸に散乱するポイ捨てごみ等をなくすため、湖岸で清掃活動に取り組まれる団体に対して、清掃にかかる活動経費の補助を予算の範囲内で行っています。

補助対象や補助金額など詳しくは市ホームページか下記まで。

■昨年度実績 3団体

☒美しい長浜をつくる会事務局
＜市役所環境保全課内＞ (☎65-6513)

☆定例観察会☆

毎月1回湖北の自然を楽しむ観察会です(参加費：入館料 大人200円・小人100円)

【とき】11月18日(日) 9時30分～12時

【内容】野鳥センター開館記念バードソン！：チーム対抗の野鳥観察ゲーム

☆湖北写真コンテスト 作品大募集☆

湖北の四季を通じた美しい自然と野鳥たち。湖北水鳥公園を中心とした美しい野鳥と風景を写真で豊かに表現してください。

【作品受付期間】H24.12.1～H25.2.28

その他詳しくは湖北野鳥センターまで

☒湖北野鳥センター (☎79-1289)

☆コンテスト協賛募集☆

【協賛内容】1口 5千円
【対象】一般(個人、企業、団体を問いません)
【特典】入賞作品の使用、掲載権が持てます。

野鳥センターから
お知らせ

